

## 平成28年度 鳥取県子ども家庭育み協会青年部研修会実施レポート

1、日 時 平成28年12月26日(月) 13:30~17:30

2、会 場 鳥取県倉吉市山根529-2 倉吉体育文化会館 小研修室2

3、主 催 鳥取県子ども家庭育み協会青年部

4、内 容 テーマ「アートな木育活動をとおして保育を考える」

～造形表現を感じる～

講 師 岐阜県立森林文化アカデミー 教授 松井勅尚 氏

講義：13:30~15:30 木育講演会

実技：15:30~17:30 木育カフェ（木の髪留めを作りながら意見交換）

本研修会では、講師の松井教授から「アートな木育活動をとおして保育を考える」をテーマに研修会を開催しました。木育とは、以前は木と人が共に生き、共に生活しながら育んできた文化がありました。近年都市化が進む中あらたに教育として育むことが重要視されています。日本の子育て文化の中に、大人に憧れをもちながら子どもへ文化を継承する教育がありました。幼児教育としても木を知り木と共に生きることで、生活に必要な社会性が育まれることを学ぶことが大切であることから、保育園での木育活動の取り組みの事例を挙げられました。

杉の木で椅子創りをするを通じて、物を創る大切さ（自主性を持って作成）、壊れたら直す（リサイクル）ことなどを幼児期に体験することで、より豊かな生活（日本の文化を継承）が育まれることを知りました。シュタイナー教育によると、0～7歳は、人生の中でもっとも模倣力の強い時期で、同じ事を意図的に繰り返すことが、意思を強くし自分らしく生きることに繋がることも知りました。



実技研修は、3グループ4、5名に分かれ、木の髪留めを作りながら意見交換をしました。このような話し合いを木育カフェといい、お互いが手を動かしながら話すことで対等な関係性の中で意見交換ができ、普段保育園での会議より、一人ひとりがより意欲的に話をしていたように思います。実際に物を作りながら意見交換をすることで、木をとおして大切なことをお互いが共通理解できた研修会となりました。

